

日仏美術学会 第145回例会
20世紀フランスの美術理論における
文学と視覚芸術の交差

日時：2018年1月20日（土）14時30分～17時15分

場所：京都大学文学部校舎1階 第2講義室（京都市左京区吉田本町）

市バス「京大正門前」下車すぐ／京阪電車「出町柳」下車徒歩12分

◆ 発表

14時30分～15時10分 小寺 里枝（京都大学大学院 博士後期課程）

「「キュビズム＝アンフォルメル」？——ジャン・ポーランの絵画論を通して
みる戦間期から戦後直後フランスの文学と美術」

15時20分～16時00分 松井 裕美（名古屋大学高等研究院 特任助教）

「20世紀フランスの美術理論における「造形的メタファー」に関する試論」

◆ 質疑応答（全体討論）

16時15分～17時15分 コメンテーター 河本 真理（日本女子大学 教授）

◇ コーディネーターと司会：大久保 恭子（京都橘大学 教授）

連絡先 E-mail：okubo-k@tachibana-u.ac.jp Tel：075-571-1111

学会員以外の方のご聴講も歓迎します。皆様のご参加をお待ちしております。

日仏美術学会

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-9-25 日仏会館内

E-mail：art-francojaponais@digital.email.ne.jp Tel/Fax：03-3280-2415